

序

大学本来の使命が、主として、教育と研究にあることは、熟知されているところであるが、この両者は、一方に偏することなく、相互に補足しあうことによつて、最もよく大学の発展に貢献し得るものと思う。大学に於ける教育の効果は、いうまでもなく、旺盛な研究活動とその業績に俟つところが極めて多い。他面よい教育は、学生の学問に対する関心や熱意をどのように刺戟し、また高めるかにかかつている。いわば、この両者は、大学という楯の両面であり、相互に補足しつつ発展すべき性質のものである。かかる意味に於て、大学が学者であると同時によい教育者である教授を求めめるのは、当然のことであり、またかかる大学教授を一人でも多く有することは、その大学をより優れたものたらしめるであらう。

神戸女学院大学は、わが国に於ける有数の女子大学である。最も古い歴史を持つ大学であり、また優秀な大学の一つであることは自他ともにこれを認めているところであるが、これは神戸女学院大学が多くの優れた条件を有しているからである。たとえば、八十年にわたる基督敎主義教育の歴史と伝統、自然的風光に恵まれた環境、優美な校舎及びその他の建造物、充実した設備、多くの優秀な卒業生、更に選択された教授団等を有し、これまでに女子高等教育の向上に對して多大の貢献をしているからである。然るに、おそらく、女子大学そのものの性格が然らしめたところであると思ふが、従来、その重点は、教養を主とした教育の面におかれ、従つて学問的研究の側面は、必ずしも活潑であつたといえない。ところが戦後、四年制の大学として再組織され、他の多くの大学と比肩して、最高の学府たることを要請されるに及んで、その研究活動もまた自ら活潑になつてきた。特に最近、文部省によつて教授組織の自治が認められ、更に大学基準協会によつてアクレディテーションが与えられるに及んで、その研究意慾は益々高められつつあるのである。これは、神戸女学院がいわゆる大学として發展するための他の要件を充足しているものといつてよい。

神戸女学院は明治八年（一八七五年）十月十二日、神戸市に於て誕生した。そして本年はちょうど創立八十周年にあたるのである。これを学問的に意義あらしめるため、ここに「論集」の記念号が特輯され、その発刊を見るに至つたことは、まことに同慶にたえないのである。八十年の長きにわたる貴重な教育的・学問的経験は、次の八十年または百年に於ける発展の不可欠の礎石である。私はこの記念論文集が、将来に於ける研究活動の重要な礎石となるであろうことを信じて疑わないものである。

昭和三十年十月

院長兼学長 難波紋吉